

社会福祉法人 優心会  
小規模多機能型居宅介護事業所かのん サービス評価  
【平成29年度】

◆自己評価

事業所自己評価・・・・・・・・・・・・・・・・（事-①～⑨）

◆小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 12 月 20 日 ( 15 : 00 ~ 16 : 00 )

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 増淵・福田・手塚・大貫・遠藤・下村・鈴木

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	5 人	2 人	人	7 人

前回の改善計画  
○アセスメントの段階で本人、家族の気持ちやニーズをより引き出せるように質問内容等を工夫していく。  
また、基本情報の内容を見直し全職員が本人、家族のニーズを確認できるようにする事で周知を図る。

前回の改善計画に対する取組み結果  
○アセスメントによりニーズの把握に努めることはできているが、スタッフへの周知に時間がかかってしまった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?		5	2		7
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	2	3	2		7
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	5	1	1		7
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	2	4	1		7

できている点 200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること  
・利用開始時など本人が不安そうな表情をしている時に声掛けをして安心できるように対応している。  
・本人の基本情報を口答または回覧にて職員間で共有した上で支援を行っている。  
・新規の利用者だけではなく、更新時に基本情報の見直しを行い、スムーズに情報共有ができるように対応できた。

できていない点 200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること  
・緊急での相談では基本情報の整理が間に合わず、口頭による情報伝達になることもあり職員への周知が円滑に行われないことがあった。

次回までの具体的な改善計画 (200 字以内)  
・利用開始前は基本情報の回覧が主となっているので必ずミーティングを行い職員間で情報を共有した上で受け入れを行っていく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 12 月 20 日 ( 15 : 00 ~ 16 : 00 )

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 増淵・福田・手塚・大貫・遠藤・下村・鈴木

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	1 人	4 人	2 人	人	7 人

前回の改善計画  
○職員個々でケアプランの内容について認識が様々なので、実際の支援と連動性を持たせることができるように会議やミーティング等で本人の目標を詳細にしていく。

前回の改善計画に対する取組み結果  
○ケアプランの確認以外で申し送り等を通して周知することで目標の共有ができています。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	1	5	1		7
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?		6	1		7
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?		6	1		7
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	1	3	3		7

できている点 200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること  
・本人の目標に近づけるよう職員間で情報を共有し支援することができた。  
・定期的に開催している会議で本人の支援内容について議論する機会をつくることができた。

できていない点 200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること  
・本人の目標が全職員にまでは把握されておらず職員全体で共通の認識を持つに至っていない。  
・職員がケアプランを見る機会が少ない

次回までの具体的な改善計画 (200 字以内)  
・新人職員を中心にケアプランについての理解を深める説明 (研修等) を行う。  
・ケアプラン回覧用のファイルを作り職員が本人の目標を確認しやすい環境を整える。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 12 月 20 日 ( 15 : 00 ~ 16 : 00 )

3. 日常生活の支援

メンバー 増淵・福田・手塚・大貫・遠藤・下村・鈴木

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3 人	3 人	1 人	人	7 人

前回の改善計画
○「以前の暮らし方」について、初回利用前のアセスメント段階で聞き取りをしっかりと行い職員と共有していく。 ○ケース記録に本人の詳細な様子も記入していくことで情報収集と共有を図る。
前回の改善計画に対する取組み結果
○本人との会話の中で「以前の暮らし方」について情報を聞き取ることはあるが職員間での共有が上手く図れなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が 10 個以上把握できていますか?		3	3	1	7
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	2	5			7
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?		4	3		7
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	2	3	2		7
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	2	3	2		7

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・必要な情報を収集し基礎的な介護の実践を行うことができている。 ・本人のバイタル測定を利用時に行い体調の把握を行っている。また、日々の様子を注意深く観察することで体調の変化に気づけるように努めることができた。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・本人の声にならない声の言語化や自宅での生活環境の把握まで理解を深めることができなかった。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
・以前の暮らし方を把握するため、職員が本人との会話の中で取得した情報 (今までの生活歴、好み等) をケアプランに書き込み職員間で情報の共有を図る。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 12 月 20 日 ( 15 : 00 ~ 16 : 00 )

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 増淵・福田・手塚・大貫・遠藤・下村・鈴木

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	3 人	4 人	人	7 人

前回の改善計画  
○アセスメントの段階で本人の交友関係や地域との関わりについても情報収集していく。  
○民生委員や社会資源の把握については情報を整理し表などでまとめるようにする。

前回の改善計画に対する取組み結果  
○本人の交友関係や地域との関わりを会話の中で確認する程度となり積極的な情報収集はできなかつた。社会資源の把握については表でまとめることができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?		3	4		7
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?		4	2	1	7
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?			6	1	7
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?			6	1	7

できている点 200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること  
・アセスメントでの聞き取りや情報提供書等から本人の生活スタイルや交友関係の把握に努めることができた。  
・必要時には地域民生委員と協力、連携を図る事ができた。

できていない点 200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること  
・職員によって地域資源の把握について認識の差があり全職員が把握するまでには至っていない。  
・本人の自宅での暮らし方の把握、地域資源の活用までには至っていない。

次回までの具体的な改善計画 (200 字以内)  
・連絡帳等を活用して家族から本人の生活スタイルや自宅での過ごし方について情報収集を行う。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 12 月 20 日 ( 15 : 00 ~ 16 : 00 )

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 増淵・福田・手塚・大貫・遠藤・下村・鈴木

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1 人	4 人	2 人	人	7 人

前回の改善計画	○日頃から柔軟な対応が取れるように小規模多機能型居宅介護の特徴を全職員で再認識していくとともに定期的に事例検討会などを開催することで柔軟な意識を身に着けられるように努めていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	○小規模多機能型居宅介護の事例検討を開催することができなかったが、申し送りや会議を通して周知することができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?		4	3		7
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	3	3	1		7
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	2	2	3		7
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	2	4	1		7

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の状況やニーズに合わせてミーティング等で適切なケアや利用方法に向けた意見を出し合うことができた。</li> </ul>	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模多機能特有の柔軟な対応があまり取れておらず職員個々の理解となり曖昧な面がある。</li> <li>・本人及び家族に対して小規模多機能の柔軟性を上手に伝えることができなかった。</li> </ul>	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模多機能型居宅介護の理解を深める事ができる研修会への参加、事例検討会の開催等で職員個々の柔軟性を高めていく。</li> </ul>	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 12 月 20 日 ( 15 : 00 ~ 16 : 00 )

6. 連携・協働

メンバー 増淵・福田・手塚・大貫・遠藤・下村・鈴木

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1 人	6 人	人	人	7 人

前回の改善計画	○自治会や地域の各機関と関わり合いをつくるため、積極的にイベントや会議などに参加させていただき、事業所と地域の連携・協働が生まれるように努めいく。
前回の改善計画に対する取組み結果	○地元のお祭りへの参加、作品展示などを行い地域との関わりを持つことができた。また、地域の自治会長に運営推進会議に参加していただき連携・協働できるように努めている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	0	5	1	1	7
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？	0	1	3	3	7
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？	0	4	2	1	7
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	1	2	4	0	7

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・他のサービス機関とは挨拶回りや担当者会議等で関りを持つことができている。 ・地域イベントへの参加（秋祭りでは利用者の作品を掲示）、近隣学校との交流等、地域と積極的に関わることができた。 ・説明会を開催することで施設を認知していただけるように努めた。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・自治体や地域包括支援センターとの会議に参加できていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
・自治体と更に協働していけるようにアプローチしていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 12 月 20 日 ( 15 : 00 ~ 16 : 00 )

7. 運営

メンバー 増淵・福田・手塚・大貫・遠藤・下村・鈴木

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	4 人	2 人	1 人	7 人

前回の改善計画	○運営推進会議の参加者増加を図る。特に地域の方を中心に警察、消防等にも会議の内容に応じて参加していただけないか依頼をしていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	○警察や消防等の参加を依頼することはできなかったが、新たに地域包括支援センターの職員や地域自治会長に参加していただくなど参加者の増加を図ることができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができますか?		5	1	1	7
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	4	2		7
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	3	2	1	7
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?		3	3	1	7

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・利用者、家族、介護者からの意見や苦情が出た場合には苦情解決責任者が中心となり対応策を速やかに検討し再発防止に努めている。 ・職員が意見を出せる場として定期的に個人面談を行っている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・地域の拠点となれるよう活動に取り組めていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
・介護相談会や認知症サポーター養成講習を事業所主催で開催するなど地域に必要とされる拠点となれるような取り組みを行う。	



事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 12 月 20 日 ( 15 : 00 ~ 16 : 00 )

8. 質を向上するための取組み

メンバー 増淵・福田・手塚・大貫・遠藤・下村・鈴木

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	1 人	5 人	1 人	人	7 人

前回の改善計画	○内部研修について、現状では大人数の職員が一度に集まるのは難しいので、職員個々の経験年数やスキルによって少人数のグループに分けていく。内容についてもグループによって理解しやすいものにする中で実践的なスキルを身に付けられるように配慮していく。
前回の改善計画に対する取組み結果	○少しずつではあるが、経験年数に応じた職場内研修会を開催することができている。また、外部研修にも機会があれば参加できるように配慮している。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修 (職場内・職場外) を実施・参加していますか	2	3	2		7
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	2	2	3		7
③	地域連絡会に参加していますか		3	1	3	7
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	1	3	2	1	7

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修へ参加する機会をつくることができた。</li> <li>・職員間でヒヤリハット報告書を基にリスクの共有を図ることで事故防止に努めることができた。</li> <li>・業務中に職員、利用者の転倒リスクを軽減するために危険な場所にステッカーで注意喚起するなど危険の見える化を実践している。</li> </ul>	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場外研修へ参加する機会が確保できなかった。(職員の経験に応じた研修が少ない)</li> </ul>	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハット報告書の様式を簡略化し些細なことでも職員が報告書を提出しやすい環境を整える。</li> </ul>	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 12 月 20 日 ( 15 : 00 ~ 16 : 00 )

9. 人権・プライバシー

メンバー 増淵・福田・手塚・大貫・遠藤・下村・鈴木

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	2人	2人	3人	人	7人

前回の改善計画	○身体拘束及び虐待についての内部研修を行うことで職員の意識を向上させていく。また、外部研修については機会があれば参加できるように配慮する。
前回の改善計画に対する取組み結果	○身体拘束・虐待については書面等を活用して周知活動が行えた。また権利擁護の外部研修に参加するなど知識の向上を図ることができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	5	2			7
②	虐待は行われていない	6	1			7
③	プライバシーが守られている	1	6			7
④	必要な方に成年後見制度を活用している	3	1	2	1	7
⑤	適正な個人情報の管理ができている	3	4			7

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・福祉用具なども活用しながら身体拘束をしない介護を実践している。 ・虐待についての理解を促すため文章等を回覧し注意喚起を行っている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・玄関前の自動ドアのみボタンを押さないと外に出られない設定になっている。(事故防止のため)	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
・身体拘束、虐待についての啓発、研修会等を定期的実施していく。また、虐待と疑わしいグレーゾーンや不適切ケアについても着目していく。	

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人優心会	代表者	毛塚 徹	法人・事業所の特徴	当事業所は旧栗野町の保健センター跡地で運営をしております。近隣には郵便局や交番、小学校など公共機関も多く旧栗野町の中では利便性の高い場所に位置しております。また、河川や山など自然環境に恵まれて、ゆったりと穏やかなサービスを提供している事業所です。
事業所名	かのん	管理者	増渕 浩志		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	人	1人	人	2人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所自己評価に関しては今回の様な形を継続するとともに外部評価委員の増加を図り適正な評価が行える体制を整えていく。	事業所自己評価に関して、ほぼ全ての職員が参加し評価が行えた。評価者についても増員し前年度に比べ適切に評価が行えたと感じられる。	職員によって経験や認識に差があり共通認識を持って改善計画に取り組むことができなかった。	年度途中で改善計画の達成状況を確認する機会を設けるなど職員が計画に対して常に意識ができるような対応を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	なし	なし	玄関前に自動販売機を設置するなど改善が見られているが、施設内の状況についてはよくわからない。	玄関が東側に位置し日中は日差しが当たらず暗い雰囲気になってしまうので、玄関照明の見直しやポーチに鉢花を置くなど環境整備を行っていく。
C. 事業所と地域のかかわり	事業所の活動内容をチラシにして回覧板やポスティング等で周知を図っていく。事業所説明会は次年度も継続していく。	事業所の活動内容をチラシにして地域の方に周知することができなかった。事業所説明会は開催することができた。	地域の方に事業所の名前は周知されているが、事業内容までは知られていない。地域に開かれた相談窓口としての環境づくりが必要だと感じる。	事業所主催で見学会や介護講習などを開催することで事業所が地域に開放されているイメージを定着させていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域行事への参加や近隣学校との交流は継続しつつ、できる限り地域の様々な場所に出向く努力をしていく。	近隣学校との交流は継続して行っている。また、地域で開催するお祭り等にも随時参加することができた。	地域のイベントには参加できているので、イベント会場の一角を借りるなどして事業所のアピールや相談を受付けてもいいのではないかと。	地域イベントで介護相談や介護体験などを行い地域の方に事業所を知って頂ける機会をつくる。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進委員の増加を図る。会議の開催時期についても参加しやすい時間設定にするなど工夫をしていく。	今年度より自治会長様、地域包括支援センターに運営推進委員になっていただき増員を図ることができた。	運営推進会議の開催日程について、忙しい方もいると思うので年間計画などがあると予定が組みやすい。会議の内容では事例検討を組み込んでみていいのではないかと。	運営推進会議の年間計画を作成する。内容についても事例検討を取り入れるなど見直しをしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	事業所の立地が水害、土砂災害時どのような被害が想定されるのかを改めて把握した上で適切な避難訓練ができる計画を作成していく。	事業所独自の風水害対策計画を作成することができた。	水害等に関して地域住民しか知らない事などもあるので自治会と連携して必要性があるのではないかと。	自治会等から地域の災害時における避難情報を教えていただくなど地域との関係性を築いていきたい。

